

ようじえんだより 2019年度12月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目253番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

12月主題『喜ぶ』

主題聖句：光は暗闇の中で輝いている。

ヨハネによる福音書 1章5節

- ☆ 0～2歳児：クリスマスの雰囲気を感じ楽しむ。クリスマスの絵本や讃美歌にふれる。保育者に見守られながら、自分でできることが増える。冬の自然にふれ、興味をもって遊ぶ。
- ☆ 3～5歳児：クリスマスの本当の意味を知り、イエス様のお誕生を喜び祝う。喜びや感謝を心を合わせて表す。世界の国々のことを知り、自分たちにできることを考え、心や体を動かす。

イエス様のお父さんヨセフ

クリスマスはイエスキリストの誕生をお祝いする時です。この時期、イエス様の誕生物語(ページェント・降誕劇)を読む(観る)たびに、イエス様のお父さんであるヨセフという人物に思いを馳せます。ヨセフはイエス様のお父さんであるがゆえに、ページェントでは重要な役ですが、実は聖書には少ししか登場しないのです。ある時、イエスキリスト誕生の聖画を見たのですが、ロウソクを片手に息子(イエス様)を見つめているヨセフの姿が何とも弱々しく頼りなく思えたものです。

しかしこの時のヨセフの気持ちを考えると、複雑な心境だったと思うのです。婚約者であったマリアの懐妊がある時突然わかります。身に覚えがなければ怒りや失望の気持ちが交錯し、婚約破棄になることが普通でしょう。実際、この時代も不貞がわかれば婚約解消はもちろん、特に女性の不貞は死罪が相当でした。ところが、ヨセフはマリアが身ごもったことを知り、“ひそかに”縁を切ろうとしたと聖書に書かれています。裏切られた思いをもちつつ、マリアの命

が脅かされることを回避したのです。そしてこのヨセフの“優しさ”の延長にイエス様の誕生があったのです。

ヨセフという生き方

中途半端なプライドがある人ほど、プライドが傷つけられると大騒ぎするのは世の常です。ヨセフがそのような男であれば、マリアは死罪でイエス様は生まれていなかったでしょう。ヨセフが器の大きな人物であったかどうかよくわかりませんが、少なくともスキャンダラスなことを騒ぎ立てたりすることなく、命を重んじる人物であったことだけは間違いのないでしょう。

多かれ少なかれ、人は強く偉大であることを求め、また多くの人から称賛される人生を歩みたがるものです。それは人間の性(さが)とも言えますし、そのすべてが悪いわけではありません。しかし地味で、口数が少なく、そっと家族を支え続けたであろうヨセフという人物に、本当の“カッコよさ”を私は感じるのです。そしてそんな“カッコよさ”を男だけでなく、すべての人が持ち合やすことができれば、少しでも平和に過ごせると思うのです。 園長:久保田愛策

年間主題『ことばに満たされて～ひびきあう～』

主題聖句：その人は流れのほとりに植えられた木。

旧約聖書 詩編1編3節